2026.10 | 都市づくりINFO | VOL.1

まちづくりと都市計画はどう違う？

まちづくりと都市計画は表裏一体

「まちづくり」とは

「まちづくり」とは、法律などで明確に定義で示された言葉ではなく、地域社会の様々な現場で使われるようになり市民によって育てられてきた言葉です。一般的には、地域住民などが主体となり、NPOや企業、行政などと協力しながら、都市部や農村部などの地域において、地域の魅力や活力を高め、安心して生活できる環境をハード・ソフト両面から整える活動を指します。将来にわたって地域住民が豊かに暮らし続けるための一連の取り組みともいえます。

「都市計画」とは

「都市計画」とは、安全で快適な都市生活と機能的な都市活動を確保することで公共の福祉の増進に寄与することを目的としています。具体的には、都市計画法に基づき、住宅、店舗、事務所、工場などの土地利用をコントロールすることや、道路や公園などの都市施設を計画することにより、効率的な都市活動の増進と良好な都市環境の保全、特色ある街並みの形成などを目的として行政が主体となって定めるまちづくりのルールです。また都市計画には、地域住民などが主体となってまちづくりのルールを提案できる都市計画提案制度や、地域の特性に応じたルールを定める地区計画制度なども用意されています。

日本の都市計画は百年の歴史

明治・大正時代は、都市部での工業化や急激な人口増加により市街地が拡大するとともに無秩序な土地利用や公害などが深刻な社会問題となりました。

これを受け、当時の内務省は都市経営・都市政策に本格的に取り組み、1919年（大正8年）に旧都市計画法が公布され、都市基盤整備の根幹となりました。

しかし、戦後の高度経済成長期には、郊外における無秩序な市街地の拡大が問題となりました。こうした状況に対応するため、1968年（昭和43年）に新都市計画法が制定され、市街化区域と市街化調整区域に区分する線引き制度などが導入されました。

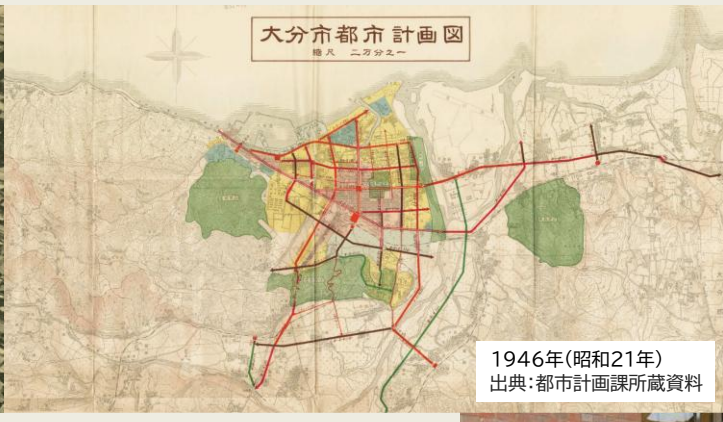
大分市都市計画の始まりとまちの再建

大分市は、1926年（大正15年）に都市計画区域が決定され、昭和6年に都市計画道路、昭和 7 年に用途地域、昭和10年には風致地区が計画決定され、大分市における都市計画の礎が定められました。

1945年（昭和20年）市街地を中心とし東部を工業地帯、南部を住居及び食糧自給圏として、都市人口15万人を目標に計画を変更しました。昭和21年には、「土地区画整理事業」の地区決定や街路決定が行われ、従来の計画を廃止、新たな計画として都市計画決定が行われました。
（大分駅新川線や駄ノ原細線が幅員36mで決定）



1933年（昭和8年）中心市街地
出典：大分市勢要覧　昭和8年版



1946年（昭和21年）
出典：都市計画課所蔵資料

まちづくり Free Talk

大分駅のニワトリ

大分駅の入口やコンコース、屋上庭園には鶏のブロンズ像が設置されている。大分といえば“とり天”だが、それが理由ではない。大分は九州の東に位置する“日いずる国”である。新しい朝を告げる縁起が良い動物として鶏を大分駅のシンボルにした。ちなみに、大分駅ビルには鶏だけでなく、卵や巣も設置されており、また、ナマズや犬などの動物たちがお客様を迎えてくれる。皆さんもぜひ探してみていただきたい。

出典：「県都・変貌」－大分駅周辺総合整備事業－　JRおおいたシティ開発ストーリー　今林　泰　P206　引用

